

あや | コラム・Webメディアライティング ポートフォリオ

最終更新日: 2026年8月31日

【読者の感情を動かす「スキ率最高水準」の文章力】×【英語一次情報の爆速リサーチ】

ただ読まれるだけでなく、「読者のファン化」と「メディアの信頼性」を同時に高めるコンテンツをご提供します。

■ プロフィール & 貴社メディアに貢献できる強み

はじめまして、あやと申します。
当ポートフォリオをご覧くださいありがとうございます。

記事の過乱立時代において、メディアに必要なのは「どこかで見たようなAI文章」ではなく、「読者の感情を揺さぶり、最後まで一気に読みさせるストーリー」です。

私は自身の体験を活かした「育児・働き方・マインド」等のコラムや、YouTubeドキュメンタリー台本、海外トレンド記事の執筆を得意としております。

◆ 1. 圧倒的なエンゲージメントを生み出す「共感・ストーリー構成」

執筆プラットフォーム「note」において、1万記事を超える競合の中で【人気1位・急上昇1位】を複数回獲得。最大【スキ率64%】という異例の高反響を記録しました。読者の離脱を防ぎ、滞在時間を延ばす「情緒と論理を両立させた構成力」に自信があります。

◆ 2. 英語圏の「一次情報」からダイレクトに掘り起こす取材・リサーチ力

翻訳・海外ニュース執筆の継続案件を担当中。日本語の二次情報に頼らず、英語の海外一次情報・海外公式資料から直接リサーチを行うため、独自性と信頼性の高いコンテンツを迅速に制作可能です。

◆ 3. スピードと正確性を両立する「AI活用×厳格ファクトチェック」

ChatGPTやClaude等を構成案・情報整理のサポーターとして駆使しつつ、ハルシネーション（嘘情報）を防ぐため、裏取り（一次ソース確認）を徹底。納期厳守はもちろん、企業様のメディアリスクに配慮した執筆を行います。

■ 主な実績

- ・1万記事を超える競合の中で【「人気1位・急上昇1位」】を複数回獲得（最大スキ率64%）
- ・海外ニュース・海外メディアの要約・翻訳・記事化（継続案件として担当中）
- ・クラウドワークス評価：【★5.0（全件最高評価獲得）】

■ 対応可能業務

- ・コラム／エッセイ／体験談記事の執筆（共感・ファン化に特化）
- ・海外メディア・英語文献のリサーチおよび要約・翻訳・記事化
- ・YouTube動画シナリオ／ドキュメンタリー台本作成（構成・ストーリー設計）
- ・構成案作成～執筆～一次情報ファクトチェック

■ サンプル記事

サンプル記事①（ビジネス・思考論）

【タイトル】

【他責思考の罠】「雨降んなコノヤロー！」と叫ぶな。4000記事の頂点を獲った『執念の自責マインド』

【記事概要】

SNSのアルゴリズム変更や環境のせいにせず、「自分でコントロールできる行動」に全注力する自責マインドをテーマにしたコラム。noteの4,000記事中で人気1位・急上昇1位を獲得した実体験と高い反応率(スキ率64%)を誇る代表作です。

※本記事はnote掲載のエッセイをもとに、ポートフォリオ用として構成を整理したものです。

【本文サンプル(抜粋・短縮版)】

「アルゴリズムが変わったコノヤロー！」

「なんで私の神記事を誰も読まないんだコノヤロー！」

SNS運用や記事執筆をしていて、そう叫びたくなかったことはありませんか？

Xからの流入がたった10クリックという絶望を味わった私も、かつては惨めさに引きずり込まれていました。

でも、ハッキリ言えます。画面に向かって叫ぶのは、空を見上げて「雨降んな！」とブチ切れているのと同じ。冷たい現実ですが、1ミリも意味がありません。

世の中には、自分の力では「絶対に動かせないもの」があります。

天気の不機嫌、アルゴリズム、そして読者の財布です。

変えられないものに貴重なエネルギーを注ぎ、思い通りにいかなくて疲弊する——これが一番もったいない時間の使い方でした。

他責(環境のせい)を捨て、すべての努力を「自分を変えること」だけに一点集中させる。

雨が嫌なら濡れない傘を用意する。買ってほしいなら、見てもらえる場所に立ち、中身を徹底的に磨く。

私たちが注力すべきは「自分の行動次第で100%変えられるもの」だけです。

我が家も3人の子どもたちが風邪を引き、家族全滅の修羅場を何度も経験してきましたが、環境のせいにせず「自分の行動」と「仕組み化」で乗り越えてきました。

他責を捨てて自責マインドに変えた瞬間、手が止まらなくなりました。

私が4,000記事の中で2回連続で人気1位・急上昇1位を獲得したのは、特別な才能があったからではありません。「変えられない環境」を嘆く時間をすべて捨て、結果を出すための具体的な行動を泥臭く実行したからです。

「やる」と決めたら、他人のせいにせず自分が変わる。

ビジネスの成功も、すべてはここから始まります。

■ サンプル記事②(エッセイ・共感系)

【タイトル】

卒業式で感じた「ありがとう」と「ごめんね」のあいだ ― 母としての気づき

【記事概要】

子どもの卒業式を前にしたリアルな葛藤と後悔、そして「母としての向き合い方」を描いたエッセイ。日常の機微を丁寧にすくい取り、読者の深い共感と呼ぶストーリーテリングのサンプルです。

※本記事はnote掲載のエッセイをもとに、ポートフォリオ用として構成を整理したものです。

【本文サンプル(抜粋・短縮版)】

今日は、子どもの卒業式だった。

朝からどこか落ち着かなくて、
バタバタと準備をしながらも、気持ちは少し沈んでいた。

本当なら、笑顔で「おめでとう」って言ってあげたかった。
6年間よく頑張ったねって、ちゃんと伝えたかった。

でも私は、叱ってしまった。

つい2日前、先生に呼び出された。

卒業を目前にしての出来事に、正直驚いたし、呆れた気持ちもあった。

「どうして今なの」

そんな気持ちと同時に、
「ちゃんと叱らなきゃいけない」
親としての責任も強く感じていた。

息子は、正直手がかかる子だった。
何度も悩んで、そのたびに向き合ってきた。

だからこそ、最後まで
何も言わずに送り出したかった。

でも、それができなかった。

式が始まって、
整列する子どもたちの姿を見ながら、
いろんな感情が一気に押し寄せてきた。

もっと違う言い方があったんじゃないか。
あんなに強く言わなくてもよかったんじゃないか。

今日という日を、
もっとちゃんと噛み締めたかった。

気づいたら、涙が出ていた。

時を戻せたらいいのに。
そんなこと、できるはずもないのに。

現実には、そのまま進んでいく。

きっと私はこれからも、
母親として厳しくしてしまうと思う。

それでも

この気持ちは、忘れたくない。

後悔も、迷いも、全部抱えながら、
それでも子どもと向き合っていくしかない。

だから、今ちゃんと伝えたい。

ごめんね。
そして、ありがとう。

6年間、本当によく頑張ったね。

そしてこの出来事を通して、
改めて思った。

子どもに誇れる母親になりたい。

「ごめんね」と「おめでとう」を重ねながら、

後悔のない向き合い方を、これからも模索していきたい。

そう思いました。